

第2学年 図画工作科学習指導案

は組 男子20名 女子20名 計40名
指導者 徳留 健成

1 題 材 うつしてうつして

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

本題材は、楽しいことや自分の夢を想像しながら、画用紙を切ったり組み合わせたりして表し方を考えながら、紙版画に表す題材である。

この期の子どもたちは、思う存分に手を働かせて楽しみながら、感じたことや想像したことを絵に表そうとする意欲が高まってきている。また、友達と話をしたり、つくりながら考えたりして、様々な方法を試したり、次々と発想したりすることができるようになってきている。そして形や色を楽しみ、友達とかかわりながら、自分の表現へのこだわりを広げていけるようになりつつある。さらに、新しい材料や用具に興味を示し、自分の表したいことに合わせて、それらを扱いながら、自分の技能を高めることを楽しむようになってきている。

そこで、画用紙を使って楽しいことや自分の夢を紙版に表すことは、画用紙の組合せや配置を工夫しながら、自分の楽しい様子や夢を想像し、紙版画に表す楽しさを味わうことができる。また、楽しいことや自分の夢など表したい主題を見つけたり、切った紙版の組合せや配置を考えて画面を構成したりすることで、つくりだす力を伸ばしていくことができる。そして、見たり、話をしたり、操作したりしながら、紙版の特徴や互いのよさに気付き、自分の表現へのこだわりを広げて、感じ取る力を伸ばしていくことができる。さらに、自分の思いに合わせて表現できるように、紙版の特徴や表現方法に気付き、それらを駆使することで、版に表す楽しさや刷り上がった満足感を味わいながら、造形的な知識・理解、技能を身に付けることができる。と考える。

このように、楽しいことや自分の夢を楽しく想像しながら、画用紙で紙版画に表していく活動は、3年生の題材「どうぶつといっしょに」で、好きな動物と一緒にいる様子を、身の回りのいろいろな材料を使って版に表す活動へと発展していく。

(2) 指導の基本的な立場

これまで子どもたちは、身の回りの材料を使ってスタンプ遊びを経験しているが、インクやローラーを使った紙版画の表現は今回初めて経験することになる。紙版画は、これまで表してきた絵のように、かいて表現するのではなく、形を組み合わせ、インクを付け、刷ることで絵に表される表現である。また、本題材で扱う紙版は画用紙であり、はさみで切ったり、のりで貼ったりして容易につくることができる。そのため、自分のイメージに合うように、画面の構成を考えたり、納得がいくまで何度も刷り直したりすることで、紙版画のよさやできた喜びを味わうことができ、意欲的に表現することができる。と考える。

また、楽しいことや自分の夢などの様子の表し方を豊かに発想していくためには、できた紙版のパーツを何度も動かしながら、自分のイメージに合った表現にしていくことが大切である。そして、互いの楽しいことや夢を作品と一緒に紹介し合うことで、友達のよさやそのよさが自分の作品に生かせることに気付き、表現へのこだわりが広がっていくようにしていきたい。さらに、自分のイメージにあった楽しい様子や自分の夢が表現できるように、紙版の特徴に気付かせたい。鑑賞活動や実際に刷る活動に取り組んだりする体験を通して、紙版画の特徴に気付かせたり、ローラーやばれんなど初めて使う用具について、適切な使い方をしっかりと身に付けたりすることができるようにしていきたい。

このような学習を通して、子どもたちは紙版画のよさを生かして、用具を適切に使いながら、紙版を動かしながら構成を工夫したり、刷ったりして、楽しいことや自分の夢などを豊かに想像し表現していく楽しさや喜びを味わい、創造的に表現していく能力や態度を培うことができる。と考える。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちのほとんどは、スタンプ遊びが好きである。1年生で学習した「ペタペタペタン」の題材で、身の回りにあるものを使って、いろいろな形に表す活動に楽しく取り組んできたことが分かる。しかしながら、「よごれる」という理由で、スタンプ遊びが好きではない子どもが2名いるので、子どもたちが意欲的に活動できるようにする必要がある。楽しいことや自分の夢を絵に表すことについては、8名の子どもが発想することができなかった。苦手意識をもち、自分でよく考えることなく回答している姿も見受けられるので、教師や友達との関わりの中で発想を広げていけるようにしていきたいと考える。鑑賞面では、自分の絵を友達に見せながらお話することについて、9名の子どもが「好きではない」と答えており、そのほとんどは、「恥ずかしい」「うまくできないと思う」という理由からである。また、友達の絵を見ながら、話を聞くことについては、ほとんどの子どもたちが「好きである」と答えているが、一方で、「好きではない」と答えた子どもが3名いる。自分や友達の絵を鑑賞し、話し合っていくことで「自分のよさや課題がわかる。」「友達の工夫を参考にできる」といったよさに気付いている子どもたちもいるので、それが全体に広がっていくように、鑑賞し話し合う価値に気付いたり、その喜びを味わったりできるようにしていきたい。知識・理解面では、顔の形をした画用紙を提示しながら「これをペタンして顔の表情をつくるには、どうすればいいかな。」と尋ねたところ、8名の子どもたちは「目や鼻の形をつくり、上から貼ればよい」などと答え、理解できている姿が見受けられた。しかし、多くの子どもたちは、表し方が分かっていないので、紙版画の特徴や表現方法に気付けるような指導をしていく必要がある。また、ローラーやばれんなど、初めて使う用具も出てくるので、技能面においても、しっかりと指導していきたい。

(4) 指導上の留意点

- ア 楽しいことや自分の夢を紙版画に表すことに興味をもてるようにするために、導入時に、楽しいことや夢などについて話し合う際、楽しく想像し、子どもや教師が共感し合う雰囲気をつくっていききたい。また、参考作品を鑑賞することで、紙版を動かして画面の構成を考えたり、納得がいくまで何度も刷り直したりすることができるなどの紙版画のよさを十分に味わえるようにしていきたい。
- イ 豊かに発想させるために、あつたらいいなと思う楽しいことやこんなことができたらいいなと思う夢について全体で話し合ったり、紹介し合ったりして、自分の表したいことのイメージがもてるようにしていきたい。また、構想していく段階で、より多くの見るポイントに気付けるような操作活動を設定して、切り取った紙版のパーツを動かしながら、自分のイメージをさらに膨らますことができるようにしていきたい。
- ウ 互いの発想や表現のよさに気付かせるために、参考作品を鑑賞する中で見るポイントに気付かせて、表現へのこだわりを広げていきたい。また、自分や友達の発想や表現を鑑賞する価値や喜びが実感できるようにしていきたい。
- エ 自分の思いに合った表現ができるように、導入で参考作品を鑑賞し、今回初めて経験する紙版画のよさに気付けるようにしていきたい。また、ローラーやばれんなどの用具も、初めて使うので、全体で指導した後、実際に試しに使いながら、知識・理解面だけでなく、技能も高めていけるようにしていきたい。

実態調査 2年は組40名(4月中旬)

- スタンプ遊びは好きですか。
はい(38名) いいえ(2名)
(スタンプ遊びが好きではない理由)
 - よごれる(2名)
- 楽しいことや自分の夢を絵に表すことができそうですか。
はい(32名) いいえ(8名)
- 自分の絵を友達に見せながら、お話することは好きですか。
はい(31名) いいえ(9名)
(「いいえ」の理由)
 - 恥ずかしい(6名)
 - うまくできないと思う(3名)
- 友達の絵を見ながら、話を聞くことは好きですか。
はい(37名) いいえ(3名)
(「いいえ」の理由)
 - 興味がない(3名)
- (顔の形をした画用紙を提示して)これをペタンして顔の表情を表すにはどうすればいいかな。
 - 目や鼻の形をつくり、上からはる(8名)
 - 思い付かない(18名)
 - 穴をあける(6名)
 - かく(4名)
 - 想像する(1名)
 - 無回答(3名)

3 目 標

- (1) 楽しいことや自分の夢を想像し、紙版画に表していく楽しさに気づき、進んで粘り強く紙版画に表すことができる。
- (2) ○ 楽しいことや自分の夢など紙版画で表したい主題を見付け、画用紙の版をいろいろな組合せを試みて、表し方を練りながら表現することができる。
○ 自分や友達の発想や表現を見つめ、自分の表現へのこだわりが広がっていくことができる。
- (3) 紙版画の特徴や表現方法を理解し、紙版画に扱う用具を適切に使って、自分のイメージに合った表現を進めることができる。

4 指導計画（全6時間）

| 過 程 | 主な学習活動 | 時間 | 教師の具体的な働きかけ |
|------------|--|-------------|--|
| 動機付け 発想 | 1 紙版に表すことについて話し合う。 絵にかいただけじゃ、インクでうつらないね。 | 2 | ○ 学習意欲を喚起するために、参考作品を提示してどんな様子が表されているか問いかける。 ○ これまで経験してきた絵の表し方と違うところについて、気付いたところを自由にあげさせ、板書にまとめることで過紙版画の特徴に気付かせ、学習のめあてへと焦点化する。 |
| | 2 学習のめあてについて話し合う。 たのしいことやじぶんのゆめをかみはんがにあらわそう。 | | ○ 学習の進め方に気付くように、参考作品や版を基に、紙の重ね方や表す内容について理解するようにする。 |
| 構 想 | 3 表現することや進め方を考える。 〔見るポイント〕 形、色、動き、組合せ、配置、大きさ | 1 (本時) | ○ 学習の進め方に気付くように、参考作品や版を基に、紙の重ね方や表す内容について理解するようにする。 ◎ 主題が決められない子どもには、「今まで楽しかったことは何かな。」「こんなことできたらいいなという夢はあるかな。」などと尋ねたり、話をしたりして、具体的に発想できるようにしたい。 |
| | 製 作 | | 4 紙版画に表す。 (1) 表したい主題を見つける。 ・ 楽しかった経験 ・ 自分の夢 (2) 画用紙に下がきして、紙版のパーツをつくる。 (3) 紙を貼り合わせて版をつくる。 どうすれば、楽しい感じになるかな。のりで貼り付ける前に、紙版のパーツをもっと動かして、試してみよう。 |
| 中間鑑賞活動 | | (4) 刷る。 | 2 |
| 鑑 賞 | 5 表したかったことを紹介し合いながら、表現を振り返り互いのよさを温め合う。 | 1 | ○ さらに思いを深めるために、刷り上がった作品を基に説明し合ったり、サインペンなどで思い付いたものを付け加えたりすることも認め、励ますようにする。 |
| 評 価 | 楽しく友達とおにごっこをして遊んだことを表したよ。大きく手を振ってせいいっぱい走っているよ。 | | ○ 互いに自分の思いが感じ取れるように、見るポイントを基に作品を紹介したり、題材全体をふり返ったりできるようにする。 |

5 本時 (3/6)

(1) 目標

- ア 楽しいことや自分の夢を想像しながら、紙版を進んで製作することができる。
- イ 切ってできた紙パーツ動かしながら、組み合わせたり、配置を考えたりして、イメージをさらにふくらませることができる。
- ウ 自分や友達の発想や表現を鑑賞して、見るポイントを見つけ、自分の表現につなげていくことができる。
- エ 鑑賞活動を通して、紙版画の特徴を生かした表現に気づくことができる。

(2) 本時の指導に当たって

導入で動きのある作品と動きのない作品を鑑賞し、気づいたことを比較して「動きをだしてより楽しい感じにしたい」という子どもの思いを引き出したい。そこで、どんな動きをつけるとよいか、友達と鑑賞しながら切り抜いたパーツを操作して、より楽しい感じが現れた紙版になるようにしていきたい。

(3) 実際

| 過程 | 主な学習活動 | 時間 | 教師の具体的な働きかけ |
|--------|--|----------|--|
| 動機付け | 1 参考作品を鑑賞する こっちの方が動きがあって楽しそうだな。 | (分) ↑ | ○ 課題意識を高めるために、動きのある作品と動きのない作品を提示して鑑賞させる。気づいたことを比較させて、見るポイントの「動き」を意識することの大切さに気付かせる。 |
| | 発想  | 7 | |
| 中間鑑賞活動 | 2 本時のめあてを話し合う。 うごきをつけて、もっとたのしいかんじのかみはんにしよう。 | ↓ | ○ 紙版に「動き」を出すことで、楽しさが出てくることを感じさせ、本時のめあてへと焦点化していく。 |
| | 3 切り抜いたパーツを動かしながら、操作する。 もっと、一生懸命おにから逃げている感じにしたいな。 | 8 | |
| 製作 | 4 鑑賞活動を設定する  足を大きくひらいて、一生懸命はしている感じにしました。 | ↑ | ○ より楽しい感じを表すことができるように、自分の切り抜いたパーツを机の上で動かしていく。その中で見るポイントの「動き」が出るように |
| | 5 構図を決めて、紙版を製作する。  友達の紙版は、体や首がぐっと曲がって楽しそうだったな。ぼくもやってみようかな。 | 5 | |
| 鑑賞 | 6 できた紙版を紹介する。 体を傾けたり、手を上に伸ばしたりして、一生懸命逃げている感じにしたよ。 | ↑ | ○ グループで、動きのつけた紙版を紹介させる。その際、楽しい感じをだすために、どんな動きを出していったか互いに紹介し、見るポイントを増やしていけるようにする。 |
| | 評価  なるほど。楽しい感じがするよ。 | 20 | |
| | | ↓ | ⑥ 構図をなかなかつけない子どもには、教師が「走っているときは足はどうなっている」「このときどんな気持ちだったの」などと具体的に尋ねて、一緒にパーツを動かしたり、動作化したりしていく。 |
| | | ↑ | ○ 鑑賞活動の価値を感じることができるよう、自分の表現に伸びが見られた子どもを紹介したり、発表させたりする。 |
| | | 5 | ○ 次時の表現への意欲を持たせるために、こだわりを広げた子どもを認め、称賛する。 |